

防火靴の性能比較表（案）

要求事項	新ガイドライン		前ガイドライン (R4.3)		ISO 11999-6:2024		JIS 規格	
	革製 (クラス I)	総ゴム・総高分子製 (クラス II)	革製 (クラス I)	総ゴム・総高分子製 (クラス II)	革製 (クラス I)	総ゴム・総高分子製 (クラス II)		
耐炎・耐熱性能	耐炎性 【甲被】 【表底】 【ファスナー】 ISO 15025:2016 A 法 試験片上端・両端への火炎伝ばなし 残炎 ≤ 2 秒, 残じん ≤ 2 秒 厚さの 1/2 に達する亀裂, 着火, 熔融不可 甲被の縫い目から分離なし 表底: 長さ 10 mm × 深さ 3 mm 以上の亀裂なし 甲被と表底: 長さ 15 mm × 幅 (深さ) 5 mm 以上の剥離なし 開閉機構の開閉不良なし		ISO 15025:2016 A 法 試験片上端・両端への火炎伝ばなし 残炎 ≤ 2 秒, 残じん ≤ 2 秒 厚さの 1/2 に達する亀裂, 着火, 熔融不可 甲被の縫い目から分離なし 表底: 長さ 10 mm × 深さ 3 mm 以上の亀裂なし 甲被と表底: 長さ 15 mm × 幅 (深さ) 5 mm 以上の剥離なし 開閉機構の開閉不良なし		ISO 15025:2016 A 法 試験片上端・両端への火炎伝ばなし 残炎 ≤ 2 秒, 残じん ≤ 2 秒 厚さの 1/2 に達する亀裂, 着火, 熔融不可 甲被の縫い目から分離なし 表底: 長さ 10 mm × 深さ 3 mm 以上の亀裂なし 甲被と表底: 長さ 15 mm × 幅 (深さ) 5 mm 以上の剥離なし 開閉機構の開閉不良なし		・ ISO 15025:2016 JIS T 8022:2020 (MOD)	
	熱伝達性 (接触熱) 【完成品】 ISO 20344:2021+Amd1:2024 の 5.15 サンドバス 250 °C 上に靴を静置 10 分後の靴内部温度 < 42 °C 40 分後に著しい硬化なく, 下記劣化がないこと 表底: 長さ 10 mm × 深さ 3 mm 以上の亀裂なし 甲被と表底: 長さ 15 mm × 幅 (深さ) 5 mm 以上の剥離なし 履物全体の著しい変形不可, アウトソールの熔融不可		ISO 20344:2011 の 5.12 サンドバス 250 °C 上に靴を静置 10 分後の靴内部温度 < 42 °C 20 分後に著しい硬化なし 表底の亀裂, 甲被と表底の剥離, 目視でわかる大きな変形不可		ISO 20344:2021+Amd1:2024 の 5.15 サンドバス 250 °C 上に靴を静置 10 分後の靴内部温度 < 42 °C 40 分後に下記劣化がないこと 表底: 長さ 10 mm × 深さ 3 mm 以上の亀裂なし 甲被と表底: 長さ 15 mm × 幅 (深さ) 5 mm 以上の剥離なし 履物全体の著しい変形不可, アウトソールの熔融不可			
	熱伝達性 (放射熱ばく露) 【甲被】 ISO 6942:2022 B 法 熱流束: 20 kW/m ² RHTI ₂₄ ≥ 40 秒		ISO 6942:2002 B 法 熱流束: 20 kW/m ² RHTI ₂₄ ≥ 40 秒		ISO 6942:2022 B 法 熱流束: 20 kW/m ² RHTI ₂₄ ≥ 40 秒		・ ISO 6942:2022 対応 JIS なし ・ ISO 6942:2002 JIS T 8020:2005 (MOD)	
	耐熱性 【表底】 【任意試験】 ISO 20344:2021+Amd1:2024 の 8.9 又は JIS T 8107:2020 の 7.8 300 °C ± 5 °C のビットで 20 kPa ± 2 kPa 加圧 60 秒 ± 1 秒 総ゴム製・総高分子製の表底: 10 分以上冷却後, 熔融, 亀裂なし		【任意試験】 ISO 20344:2011 の 8.7 又は JIS T 8107:2020 の 7.8 ゴム・高分子の表底: 熔融, 亀裂なし		【任意試験】 ISO 20344:2021+Amd1:2024 の 8.9 300 °C ± 5 °C のビットで 20 kPa ± 2 kPa 加圧 60 秒 ± 1 秒 10 分以上冷却後前後に曲げ, 熔融, 焦げ, 亀裂, ひび割れなし		JIS T 8107:2020	
	低温熱伝達性 【完成品】 【任意試験】 ISO 20344:2021+Amd1:2024 の 5.16 23 °C ± 2 °C, 50 % ± 5 %RH で 24 時間以上調整後 -17 °C ± 2 °C の冷却槽に 30 分間静置 中底上面の温度降下 ≤ 10 °C		【任意試験】 ISO 20344:2011 の 5.13 23 °C ± 2 °C で 3 時間以上調整後, -17 °C ± 2 °C の冷却槽 30 分間静置 中底上面の温度降下 ≤ 10 °C		【任意試験】 ISO 20344:2021+Amd1:2024 の 5.16 23 °C ± 2 °C, 50 % ± 5 %RH で 24 時間以上調整後 -17 °C ± 2 °C の冷却槽に 30 分間静置 中底上面の温度降下 ≤ 10 °C			
機械的強度性能	引張抵抗 【甲被】 ISO 20344:2021+Amd1:2024 の 6.4 引張強さ ≥ 15 N/mm ²		ISO 20344:2011 の 6.4.1 引張強さ ≥ 15 N/mm ²		ISO 20344: 2021+Amd1:2024 の 6.4 床革製の引張強さ ≥ 15 N/mm ²		JIS T 8101:2024	
	1) 総ゴム製 ISO 20344:2021+Amd1:2024 の 6.4 破断強度 ≥ 180 N 2) 総高分子製 ISO 4643 100%モジュラス ≥ 1.0 N/mm ² 伸び ≥ 250 %		1) 総ゴム製 ISO 20344:2011 の 6.4.2 破断強度 ≥ 180 N 2) 総高分子製 ISO 4643 100%モジュラス 1.3~4.6 N/mm ² , 伸び ≥ 250 %		1) 総ゴム製 ISO 20344: 2021+Amd1:2024 の 6.4 破断強度 ≥ 180 N 2) 総高分子製 ISO 4643 100%モジュラス ≥ 1.0 N/mm ² 伸び ≥ 250 %			
	引裂抵抗 【甲被, ベロ革】 ISO 20344:2021+Amd1:2024 の 6.3 甲被 ≥ 120 N ベロ革 ≥ 36 N		ISO 20344:2011 の 6.3 甲被 ≥ 120 N ベロ革 ≥ 36 N		ISO 20344:2021+Amd1:2024 の 6.3 革製: 甲被 ≥ 120N ベロ革 ≥ 36N 非革製: 甲被 ≥ 60N ベロ革 ≥ 18N			JIS K 6557-4:2016
引裂抵抗 【表底】		ISO 20344:2021+Amd1:2024 の 8.3 高密度 (> 0.9 g/cm ³) の場合 引裂抵抗 ≥ 8 kN/m 低密度 (≤ 0.9 g/cm ³) の場合 引裂抵抗 ≥ 5 kN/m		ISO 20344:2011 の 8.2 高密度 (> 0.9 g/cm ³) の場合 引裂抵抗 ≥ 8 kN/m 低密度 (≤ 0.9 g/cm ³) の場合 引裂抵抗 ≥ 5 kN/m		ISO 20344:2021+Amd1:2024 の 8.3 (ISO 34-1:2015 A 法 (トラサ [®] 形)) 高密度 (>0.9 g/cm ³) の場合 引裂抵抗 ≥ 8 kN/m 低密度 (≤ 0.9 g/cm ³) の場合 引裂抵抗 ≥ 5 kN/m		JIS K 6252-1:2015

防火靴の性能比較表（案）

要求事項	新ガイドライン		前ガイドライン (R4.3)		ISO 11999-6:2024		JIS 規格	
	革製 (クラス I)	総ゴム・総高分子製 (クラス II)	革製 (クラス I)	総ゴム・総高分子製 (クラス II)	革製 (クラス I)	総ゴム・総高分子製 (クラス II)		
機械的強度性能	耐摩耗性 【表底】	ISO 4649:2015 A 法 高密度 (> 0.9 g/cm ³) の場合 相対減量 < 150 mm ³ 低密度 (≤ 0.9 g/cm ³) の場合 相対減量 < 250 mm ³	ISO 4649:2015 A 法 相対減量 < 250 mm ³	ISO 4649:2010 A 法 高密度 (> 0.9 g/cm ³) の場合 相対減量 < 150 mm ³ 低密度 (≤ 0.9 g/cm ³) の場合 相対減量 < 250 mm ³	ISO 4649:2010 A 法 相対減量 < 250 mm ³	ISO 20344:2021+Amd1:2024 の 8.4 (ISO 4649:2015 A 法) 高密度 (> 0.9 g/cm ³) の場合 相対減量 < 150 mm ³ 低密度 (≤ 0.9 g/cm ³) の場合 相対減量 < 250 mm ³	ISO 20344:2021+Amd1:2024 の 8.4 (ISO 4649:2015 A 法) 相対減量 < 250 mm ³	JIS K 6264-2:2005
	耐摩耗性 【トゥガード】	トゥガードを使用している場合 ISO 20345: 2021+Amd1:2024 の 5.24 ISO 23388:2018 の 6.1 8,000 回で孔が空かない				トゥガードを使用している場合 ISO 20345: 2021+Amd1:2024 の 5.24 ISO 23388:2018 の 6.1 スカップキャップ [®] に孔が開く ≧ 8,000 回		
	耐屈曲性 【甲被】		ISO 20344:2021+Amd1:2024 の 6.5 又は JIS K 6260:2017 デマツチャ式屈曲試験機を使用 1) 総ゴム製 屈曲回数: 125,000 回 2) 総高分子製 屈曲回数: 150,000 回 目に見える亀裂なし		ISO 20344:2011 の 6.5 又は JIS K 6260:2017 デマツチャ式屈曲試験機を使用 1) 総ゴム製 屈曲回数: 125,000 回 2) 総高分子製 屈曲回数: 150,000 回 目に見える亀裂なし		ISO 20344:2021+Amd1:2024 の 6.5 1) 総ゴム製 屈曲回数: 125,000 回 2) 総高分子製 屈曲回数: 150,000 回 目に見えるヒソホールと亀裂なし	JIS K 6260:2017
	耐屈曲性 【表底】	ISO 20344:2021+Amd1:2024 の 8.6 屈曲回数 30,000 回 亀裂 ≤ 4 mm 但し, 亀裂深さ ≤ 0.5 mm, 又は亀裂深さ < 1.5 mm で亀裂長 ≤ 4 mm のものが 5 個以下の場合を除く		ISO 20344:2011 の 8.4 屈曲回数: 30,000 回 亀裂 ≤ 4 mm 但し, 亀裂深さ ≤ 0.5 mm, 又は亀裂深さ < 1.5 mm で亀裂長 ≤ 4 mm のものが 5 個以下の場合を除く		ISO 20344:2021+Amd1:2024 の 8.6 屈曲回数 30,000 回 亀裂 ≤ 4 mm 但し, 亀裂深さ < 1.5 mm で亀裂長 ≤ 4 mm のものが 5 個以下の場合を除く		
	耐屈曲性 【踏抜き防止板】	ISO 20344:2021+Amd1:2024 の 5.12 屈曲回数: 30,000 回 目に見える亀裂なし		ISO 20344:2011 の 8.4 屈曲回数: 30,000 回 目に見える亀裂なし		ISO 20344:2021+Amd1:2024 の 5.12 屈曲回数: 1,000,000 回 目に見える亀裂なし		JIS T 8107:2020
	耐踏抜き性 【表底】	ISO 20344:2021+Amd1:2024 の 5.8 金属製踏抜き防止板の場合 踏抜き力 ≥ 1,100 N 非金属製踏抜き防止板の場合 荷重 1,100 N 時に, 試験用くぎの先端が貫通しない		ISO 20344:2011 の 5.8 金属製踏抜き防止板の場合 踏抜き力 ≥ 1,100 N 非金属製踏抜き防止板の場合 荷重 ≥ 1,100 N 時に試験用くぎの先端が貫通しない		ISO 20344:2021+Amd1:2024 の 5.8 金属製踏抜き防止板の場合 踏抜き力 ≥ 1,100 N 非金属製踏抜き防止板の場合 タイプ PL: 荷重 1,100 N 時に試験用くぎの先端が貫通しない 層の剥離が生じてはならない タイプ PS: 貫通時荷重 ≥ 1,100 N, 単一の値: > 950 N, 層の剥離があってはならない		JIS T 8101:2024
	剥離抵抗 【表底及び甲被】	ISO 20344:2021+Amd1:2024 の 5.2 剥離抵抗 (接着力) ≥ 4.0 N/mm <材破の場合> 剥離抵抗 (接着力) ≥ 3.0 N/mm		ISO 20344:2011 の 5.2 剥離抵抗 (接着力) ≥ 4.0 N/mm 材破の場合は剥離抵抗 (接着力) ≥ 3.0 N/mm		ISO 20345:2021+Amd1:2024 の 5.2 剥離抵抗 (接着力) ≥ 4.0 N/mm <材破の場合> 剥離抵抗 (接着力) ≥ 3.0 N/mm		JIS T 8101:2024
	つま先部の 耐衝撃性	ISO 20344:2021+Amd1:2024 の 5.4 耐衝撃性: 200 J で最小隙間寸法合格		ISO 20344:2011 の 5.4 耐衝撃性: 200 J で最小隙間寸法合格		ISO 20345:2021+Amd1:2024 の 5.4 耐衝撃性: 200 J で最小すきま寸法合格		JIS T 8101:2024
	つま先部の 耐圧迫性	ISO 20344:2021+Amd1:2024 の 5.5 耐圧迫性: 15 kN で最小隙間寸法合格		ISO 20344:2011 5.5 耐圧迫性: 15 kN で最小隙間寸法合格		ISO 20345:2021+Amd1:2024 の 5.5 耐圧迫性: 15 kN で最小すきま寸法合格		JIS T 8101:2024
	かかと部の 衝撃エネルギー吸収性	ISO 20344:2021+Amd1:2024 の 5.17 衝撃エネルギー吸収性 ≥ 20 J		ISO 20344:2011 5.14 衝撃エネルギー吸収性 ≥ 20 J		ISO 20345:2021+Amd1:2024 の 5.17 衝撃エネルギー吸収性 ≥ 20 J		JIS T 8101:2024

防火靴の性能比較表（案）

要求事項	新ガイドライン		前ガイドライン (R4.3)		ISO 11999-6:2024		JIS 規格	
	革製 (クラス I)	総ゴム・総高分子製 (クラス II)	革製 (クラス I)	総ゴム・総高分子製 (クラス II)	革製 (クラス I)	総ゴム・総高分子製 (クラス II)		
機械的強度性能	ISO 13287:2019 又は JIS T 8101:2024 の 6.2.8 グリセリン水溶液を塗布したステンレス板において、水平な前方向の滑りの動摩擦係数を測定する 1) ISO 13287:2019 の場合 動摩擦係数 ≥ 0.18 2) JIS T 8101:2020 の場合 動摩擦係数 ≥ 0.2		ISO 13287:2012 又は JIS T 8101:2024 6.2.8 グリセリン水溶液を塗布したステンレス板において、水平な前方向の滑りの動摩擦係数を測定する 1) ISO 13287:2012 の場合 動摩擦係数 ≥ 0.18 2) JIS T 8101:2020 の場合 動摩擦係数 ≥ 0.2		ISO 20344:2021+Amd1:2024 の 5.14 1) ラウリル硫酸ナトリウム水溶液を塗布したユークライ 2 床において ・かかと後方試験：動摩擦係数 ≥ 0.31 ・前足部後方試験：動摩擦係数 ≥ 0.36 2) 【任意試験】グリセリン水溶液を塗布したユークライ 2 床において ・かかと後方試験：動摩擦係数 ≥ 0.19 ・前足部後方試験 ≥ 0.22		JIS T 8101:2024	
	切創抵抗【甲被】	【任意試験】 ISO 23388:2018 の 6.2 クープ法 耐切創指数 ≥ 2.5		【任意試験】 EN 388:2016 クープ法 耐切創指数 ≥ 2.5		【任意試験】 ISO 23388:2018 の 6.2 クープ法 耐切創抵抗 ≥ 2.5		
耐水性・透湿性	耐水性【完成品】	ISO 20344:2021+Amd1:2024 の 5.19 甲被と表底の継目より 20 mm 上の位置まで水で浸せきし、毎分 60 回の屈曲を 80 分実施 内部浸透 $< 3 \text{ cm}^2$		ISO 20344:2011 5.15.2 甲被と表底の継目より 20 mm 上の位置まで水で浸せきし、毎分 60 回の屈曲を 80 分実施 内部浸透 $< 3 \text{ cm}^2$		ISO 20344:2021+Amd1:2024 5.19 甲被と表底の継目より 20 mm 上の位置まで水を満たし、毎分 60±6 回の屈曲を 80±5 分実施 靴内部への浸透がないこと		
	漏れ防止性【完成品】	ISO 20344:2021+Amd1:2024 の 5.7 空気圧 30±5kPa 連続した気泡なし		ISO 20344:2011 の 5.7 空気圧 30 kPa±5 kPa 連続して気泡なし		ISO 20344:2021+Amd1:2024 の 5.7 空気圧 30 kPa±5 kPa 空気漏れなし		JIS T 8101:2024
	透湿性【甲被】	1) ISO 20344:2021 +Amd1:2024 6.6 及び 6.8 透湿度 $\geq 0.8 \text{ mg/cm}^2 \cdot \text{h}$ 透湿係数 $\geq 15 \text{ mg/cm}^2$ 2) JIS K 6549 透湿度 $\geq 0.8 \text{ mg/cm}^2 \cdot \text{h}$		1) ISO 20344:2011 6.6 及び 6.8 透湿度 $\geq 0.8 \text{ mg/cm}^2 \cdot \text{h}$ 透湿係数 $\geq 15 \text{ mg/cm}^2$ 2) JIS K 6549 透湿度 $\geq 0.8 \text{ mg/cm}^2 \cdot \text{h}$		ISO 20344:2021+Amd1:2024 6.6 及び 6.8 <非透湿性材料の最大面積が 10%> 透湿度 $\geq 0.8 \text{ mg/cm}^2 \cdot \text{h}$ 透湿係数 $\geq 15 \text{ mg/cm}^2$ <非透湿性材料が甲被に最大 50%含まれる> 残り全ての材料の透湿性 $\geq 2.0 \text{ mg/cm}^2 \cdot \text{h}$		
	水浸透性と吸水性【甲被】	1) 水浸透性 ISO 20344:2021+Amd1:2024 の 6.13 60 分後の吸水布質量増加 $\leq 0.2 \text{ g}$ 吸水率 $\leq 30 \%$ 2) 吸水性 JIS K 6557-6 吸水率 $\leq 30 \%$		1) 水浸透性 ISO 20344:2011 6.13 60 分後の吸水布質量増加 $\leq 0.2 \text{ g}$ 吸水率 $\leq 30 \%$ 2) 吸水性 JIS K 6557-6 吸水率 $\leq 30 \%$		ISO 20344:2021 +Amd1:2024 6.13 60 分後の吸収布質量増加) $\leq 0.2 \text{ g}$ 吸水率 $\leq 30 \%$		
耐化学薬品性能	液体化学薬品浸透性【甲被】【表底】		ISO 6530:2005 40% NaOH 36% HCl 37% H ₂ SO ₄ オルトキシレン（無希釈） 反発指数 $> 80 \%$ 内部への浸透不可		ISO 6530:2005 40% NaOH 36% HCl 37% H ₂ SO ₄ オルトキシレン（無希釈） 反発指数 $> 80 \%$ 内部への浸透不可		【任意試験】 化学物質 25 種類のうち少なくとも 3 種類について劣化要件・耐浸透性を満たす 1) 耐劣化 EN 13832-3:2018 の 6.2.1.2 ・EN 13832-3:2018 附属書 B の劣化なし ・靴内部への浸透不可 ・液体が靴内に残留不可 2) 耐浸透 EN 13832-3:2018 の 6.2.1.3 耐浸透性 ≥ 121 分	JIS T 8033:2006

防火靴の性能比較表（案）

要求事項	新ガイドライン		前ガイドライン (R4.3)		ISO 11999-6:2024		JIS 規格	
	革製 (クラス I)	総ゴム・総高分子製 (クラス II)	革製 (クラス I)	総ゴム・総高分子製 (クラス II)	革製 (クラス I)	総ゴム・総高分子製 (クラス II)		
耐化学薬品性能	ISO 20344:2021+Amd1:2024 の 8.8 ISO 1817:2015 の 8.3 の一般手順 体積増加 ≤ 12 % 浸せきで 1.0 %以上収縮した場合、又は硬度が 10 以上硬化した表底材料は ISO 4643:1992 の附属書 C により 150,000 回屈曲後の亀裂成長を記録		ISO 20344:2011 の 8.6.1 試験方法は ISO 1817:2011 の一般手順 体積増加 ≤ 12 % 浸せきで 1.0 %以上収縮した場合、又は硬度が 10 以上硬化した表底材料は ISO 4643:1992 の附属書 C により 150,000 回屈曲後の亀裂成長を記録		ISO 20344:2021+Amd1:2024 の 8.8 試験方法は ISO 1817:2015 8.3 の一般手順 体積増加 ≤ 12 % 浸せきで 1.0 %以上収縮した場合、又は硬度が 10 以上硬化した表底材料は ISO 4643:1992 の附属書 C により 150,000 回屈曲後の亀裂成長を記録		JIS K 6258:2016	
	【任意試験】 ISO 13994 手順 C1 40 % NaOH 36 % HCl 37 % H ₂ SO ₄ O-キシレン（無希釈） 内部への浸透不可	/		/		【任意試験】 ISO 13994 手順 C1 40 % NaOH 36 % HCl 37 % H ₂ SO ₄ O-キシレン（無希釈） 内部への浸透不可		
電気的性能	JIS T 8103:2024 ISO 20344 と整合性を持たせるために環境区分 2（湿度 25 %RH） 23 °C : $1 \times 10^5 \Omega \leq R \leq 1 \times 10^8 \Omega$ 0 °C : $1 \times 10^5 \Omega \leq R \leq 1 \times 10^9 \Omega$		JIS T 8103:2010 ISO 20344 と整合性を持たせるために環境区分 2（湿度 25 %RH） 23 °C : $1 \times 10^5 \Omega \leq R \leq 1 \times 10^8 \Omega$ 0 °C : $1 \times 10^5 \Omega \leq R \leq 1 \times 10^9 \Omega$		ISO 11999-6:2024 の 6.4 静電気帯電防止靴か電気絶縁靴のどちらか一方を選択 1) 静電気帯電防止靴の場合 ISO 20344:2021+Amd1:2024 の 5.13 コンデションング : 乾燥環境 20 °C×30 %RH 又は湿潤環境 20 °C×85 %RH で 7 日間静置 23 °C×50 %RH で測定し、 $1 \times 10^5 \Omega \leq R \leq 1 \times 10^9 \Omega$ 2) 電気絶縁靴の場合 EN 50321-1:2018 クラス 00（定格電圧が AC500 V 又は DC750 V 以下の設備用） 又は、クラス 0（定格電圧が AC1,000V 又は DC1,500 V 以下の設備用）の何れかに適合		JIS T 8103:2024	
その他の性能	6 価クロム含有量 【甲被】 【先裏, 腰裏, ベロ (革の場合)】	ISO 20344:2021+Amd1:2024 の 6.11 ISO 17075-1:2017 又は ISO 17075-2:2017 6 価クロム含有量 < 3.0 mg/kg		ISO 20344:2011 6.11 6 価クロム含有量 < 3.0 mg/kg		ISO 20344:2021+Amd1:2024 の 6.11 ISO 17075-1:2017 又は ISO 17075-2:2017 6 価クロム < 3.0 mg/kg		/
	加水分解性 【甲被】 (ホリウレタン製)	/		ISO 20344:2021+Amd1:2024 の 6.10 屈曲回数 : 150,000 回 亀裂なし	ISO 20344:2011 の 6.10 屈曲回数 : 150,000 回 亀裂なし	/		/
	加水分解性 【表底】 (ホリウレタン製)	ISO 20344:2021+Amd1:2024 の 8.7 屈曲回数 : 150,000 回 亀裂成長 ≤ 6 mm		ISO 20344:2011 の 8.5 屈曲回数 : 150,000 回 亀裂成長 ≤ 6mm		ISO 20344:2021+Amd1:2024 の 8.7 屈曲回数 : 150,000 回 亀裂成長 ≤ 6 mm		/
	スライドファスナーの 装着強度	ISO 11999-6:2024 の 7.4 引手の装着強度 > 250 N 横方向の強度 > 500 N		ISO 11999-6:2016 の 7.4 引手の装着強度 > 250 N 横方向の強度 > 500 N		ISO 11999-6:2024 の 7.4 引手の装着強度 > 250 N 横方向の強度 > 500 N		/
	踏まず部意匠高さ 及びかかと高さ 【表底】	参考情報に記載		参考情報に記載		ISO 11999-6:2024 の 6.6.4 不踏部クリア高さ ≥ 1.5 mm 不踏部距離 ≥ 35 mm 踵アゴの角度 90~120° 不踏部から踵接地面の高さ ≥ 10 mm		/